

21世紀を担う調和のとれた人間教育

「私にとって落語は人生そのもの」

●講師紹介 古今亭志ん五氏

いくつかの職業を経験した後、27歳から落語の世界に入り、現在は最高位の真打として活躍している落語家です。また、小江戸川越観光親善大使も務められています。学生時代には野球部に所属していたエピソードも話してくださり、様々なことに挑戦されてきました。



●講演内容

講演の前半は志ん五師匠のユーモアある体験談や、落語で使う扇子と手拭いの説明、そして実際に落語を聞かせていただきました。「転失気」という落語では、和尚さんが知ったかぶりをして最終的に恥をかく、といったような話で、たくさんの笑いが起こるようなとても面白いものでした。

後半は、志ん五師匠の落語界に入るまでの話を聞かせていただきました。「失敗を恐れない」「つらいことは喜びへのステップ」「物事を長い目で見る」などと人生の先輩としてのアドバイスもいただきました。



講演感想文



○落語を実際に見るのは今回が初めてであり、「落語は昔のものなので、難しく理解できないのでは」と不安でした。しかし志ん五師匠の気持ちの入った読み方や表現は、非常に面白く、とても楽しむことができました。本当に面白いものは、今も昔も変わらないのだなと感じました。

○志ん五師匠の人間性に驚かされました。落語家になる前に自動車販売の営業をしており、何軒も訪問して時にはお客さんに水をかけられたこともあったそうです。しかし苦労した末にお客さんが車を買ってくれたことが本当に嬉しかったと話をして頂きました。人のことを考え、人を幸せにできることの大切さを感じました。私も人のことを幸せにできる人間になりたいです。



生活委員より



今では落語界の最高位の志ん五師匠ですが、若い頃から落語家を目指していたのではなく、27歳で落語界に入ったと知り、夢を追いかけるのに年齢は関係ないのだと思いました。私たちもこれからの人生の中で夢を見つけたら、その実現に向け、何事にも挑戦していきたいです。

作成：一貫部高1 生活委員